

『東日本大震災後の播磨の防災』

▼問合せ 危機管理グループ ☎079(435)0991

12月11日、中央公民館にて奥村 与志弘氏（人と防災未来センター主任研究員）を講師に迎え、津波に対する正しい理解を深めると共に、防災意識の向上、地域防災力の向上を図るための播磨町自主防災組織の研修会を実施しました。
いざというとき、自分の身を守るためにどうしたらいいのか？これからの播磨町の防災を考えるうえで、住民の皆さまと情報を共有するために、研修会で行われた講演内容の一部をご紹介します。

東日本大震災を振り返って

東日本大震災は、戦後の日本が伊勢湾台風以降初めて経験したタイプの災害「スーパー広域災害（※1）」というタイプであった。

阪神・淡路大震災は、兵庫県だけで2千人を超える犠牲者を出したが、隣の大阪府は犠牲者を出したものの、兵庫県の支援に回っている。一方で、東日本大震災では、支援を必要としたのは、岩手・宮城・福島に3県にまたがっており、阪神・淡路大震災と比較し、支援の関係者が非常に多く、調整も複雑になり、難しくなる。今回は、阪神・淡路大震災で起こったことのない問題が次々と発生しており、経験則が通用しない場合

も出てきている。どれだけ大胆に支援行動が行えるかが試されているともいえる。例えば、阪神・淡路大震災では、風呂や洗濯のための水がなかった状況であったが、東日本大震災では飲み水すらなかった状況であった。
阪神・淡路大震災も辛い状況であったにも関わらず、東日本大震災はそれをしのぐ状況であった。

東日本大震災以降、私たちが抱えている不安について

東日本大震災以降、私たちは漠然とした不安を抱えている。その原因としては2つで、「想定を超える津波を経験した」ということと「スーパー広域災害を目の当たりにした」ということであろう。

東日本大震災はプレート境界型の地震（※2）であり、これまでの研究でプレートが毎年沈み込む量やこれまで発生した地震の頻度から、地震や津波の規模を予想してきた。ところが今回、研究の中で形成されてきたメカニズムでは説明のつか



※2 プレート境界型の地震 海のプレートが陸のプレートの下に沈み込む時、陸のプレートの先端は、まき込まれ、やがて反発力によって跳ね返る。この時プレート境界で発生するタイプの地震。関東大地震や十勝沖地震などのように巨大地震となることがあり、大きな津波を引き起こすことがある。

ない現象が起きている。それゆえ、これまでの「被害想定」の信頼性が揺らぎ、不安に襲われることになる。また、西日本では「スーパー広域災害」が確実に起こるとされており、東海・東南海・南海地震で予想されている被災規模は、東日本大震災の10倍といわれている。

東日本大震災では多くの自衛隊員が被災地の支援を行っているが、これが限界ということが判った。これ以上の災害が発生しても、今回以上の数の自衛隊員が支援活動に従事することはできない。

東海・東南海・南海地震では被災規模が10倍にも関わらず、自衛隊は今回と同様の規模の支援が限界ということとは、東海・東南海・南海地震での支援は、行方不明者の捜索も炊き出しなどの支援も東日本大震災におけるそれから10分の1の規模感になるといえることである。

には、人が生き残るのが重要であり、一人でも犠牲を減らし、災害を乗り切るための力となるようになって欲しい。できれば、過酷な状況となる四国地域に支援が可能ならぬ余力が確保できるように取り組んでもらいたい。

※3 東南海・南海地震に伴う津波が播磨町に到達するまでには110分～130分の時間的余裕があると想定されている。この間にいかに適切な避難行動が取れるかが犠牲者を減らす鍵になる。



▲東日本大震災での津波の被害
※1 スーパー広域災害 複数の都道府県にまたがる巨大災害。巨大災害ではあったが局所的な災害であった阪神・淡路大震災とは別に分類される。

これまでの防災対策に欠けていたものと今後の防災対策

1. 既存の理論を疑う目

今後、新たな被害想定やそれに基づくハザードマップは出されると思われる。しかし、行政の「想定」とはあくまでも行政の目標であり、お墨付きではない。従って、被害想定にとらわれることなく、①最善を尽くして時間のある限りより高いところへ避難し続けることができるか ②二重三重の避難体制を築けるか、と

2. 命綱

これまで避難所は安全な場所であり、津波避難ビルに指定されている建物や津波に飲み込まれるなど考えていなかった。しかし、今後は、極限状況で希望となる道具や施設（救命胴衣、ロープなど）を備えておく必要があるのではないか。

3. 安否確認の行動と避難行動の一致

「津波でんでんこ」（※次ページコラム参照）と言われるが、家族が危険な場所にいるとわかっていて逃げることができない。現に、東日本大震災では25%の人が、避難よりも先に家族の安否確認をしていることがわかっている。大切なのは、危険な状況に追い込まれないよう、事前の対策をするということである。

例えば、高台に学校をつくれれば、子どもを心配する親が高台の学校へ向かうということになり、子どもの安否確認の行動と避難行動を一致させることができ、理想的である。しかし、物理的な制約もあり簡単にはいかない。

4. 蓄積される防災を目指す

人の意識は時間と共に変化している。防災意識も今は高まりを見せているが、時間の経過と共にどう変化するかわからない。そのような不安定な人の意識よりも、例えば避難路の整備や津波避難ビルの指定など確実に形となって残る防災対策を念頭に置く必要がある。

5. 率先して避難し、慎重な行動をとる

自分の命は自分だけのものではない。例えば、災害時に率先して避難することで、自分も助かるが、それに続いて避難した人も助かることになる。また、津波は長い時間をかけて何度も来襲するが、津波が引いたからといって安易に避難を中止すると、それに引きずられて避難を中止する人も出てくる。しかし、後に来襲した津波によって犠牲となった人もい

る。

率先して避難し、慎重な行動を取ることが、自分の命だけでなく、周りの人の命も助けることにつながる。

6. 教訓を後世に伝えること

岩手県では今回の津波で学校の管理下にあった子どもは一人も犠牲になっっていない。犠牲になったのは家庭にいた子どもである。子どもは親の行動に従い、そして犠牲となった。災害を軽視したり、避難行動を取らない社会や家庭で育った子どもは、同じような行動をすることになる。

いざという時に命を守ることができよう、これまでの教訓を後世に伝えなければならない。

7. これからの播磨町の防災

地域主権や地域主導が言われて久しいが、防災でも同様に、地域と行政が一体となり、共に防災に取り組み、できるだけ被害を少なくすることが大切になる。また、東海・東南海・南海地震が発生すれば、その被災規模から基本的には外部からの支援は期待できないと考えたほうがよい。播磨町も確実に東海・東南海・南海地震の影響を受けることになる。どれほどの被害になるかはわからないが、津波には時間的な猶予（※3）がある。この時間的な猶予を味方につけ、的確に避難する必要がある。



▲簡易トイレの組み立て訓練

自主防災組織による消火訓練



1月18日 播磨南中学校防災訓練に自主防災組織も参加しました

ぼくは 忘れない 2011.3.11

表紙の言葉 池田旺矢くん（播磨小学校）

地デジデータ放送による 災害関連情報の提供開始

災害時に兵庫県内の市町が発信する避難勧告などの情報（避難勧告・指示、避難所開設、河川の水位・雨量）を、地上デジタル放送テレビのデータ放送を通じて、いち早く住民に伝える新しいシステムの運用が、1月17日から始まりまし。

※本システムは、公共情報コモンズを活用した新しいシステムです。

▼問合せ 危機管理グループ ☎079(435)0991



画面の表示方法

NHK神戸放送局の場合

- ①NHK総合テレビにチャンネルを合わせる
- ②リモコンの『d(データ放送)』ボタンを押す
- ③リモコンの矢印で「暮らし安全」にあわせ『決定』を押す

サンテレビの場合

- ①サンテレビにチャンネルを合わせる
- ②リモコンの『d(データ放送)』ボタンを押す
- ③リモコンの矢印で「防災情報」にあわせ『決定』を押す



◀NHK平常時画面



▼NHK災害時画面

災害が発生すると

『守りたい。地域の絆と、未来に繋がる笑顔。』 播磨町消防団は団員を募集しています

▼問合せ 危機管理グループ ☎079(435)0991

消防団員のやりがいは、地域に暮らす自分自身が、地域のために働き、身近な人の役に立てること。そして、年齢も職業も様々な仲間と出会い、人としても大きく成長していけるこ

とにあります。

播磨町の消防団員は、現在30人（内女性団員20人）で、火災発生時の消火活動、地震や風水害の災害発生時の救助・救出活動などに従事し、地域住民の生命・財産を守るために活躍しています。

また、災害発生時だけでなく、平常時においても訓練・防災・防火に対する啓発活動を行い、防災力の向上に貢献しています。

播磨町消防団では、このような地域安全の「縁の下力持ち」としての消防団員を募集しています。年齢が18歳以上50歳未満で、町内に居住している方であれば入団できます。あなたも、地域のために、一緒にがんばりませんか。



▲地域のために

▶様々な啓発活動を行う女性分団

3月は引っ越しの多いシーズン 家具の転倒防止などの対策を!!

地震時には、家具や家電の転倒・落下によりケガをするだけでなく、転倒した家具などにより避難路がふさがれることもあります。こうした被害は、家具・家電の配置を変えたり、転倒防止器具の取り付けやガラス飛散防止シートの貼り付けにより防ぐことができます。引っ越しや自宅やオフィスのレイアウト変更の際には、これらの対策を行う絶好の機会ですので、地震に備え、ぜひ取り組んでください。

防衛省 自衛官募集

①予備自衛官補

- ▶応募資格
 - 一般：18～34歳未満
 - 技能：18歳以上で国家免許資格などを有する者
- ▶締切日 4月4日(水)
- ▶試験日 4月13日(金)～16日(月)の1日

②自衛隊幹部候補生

- ▶応募資格
 - 一般・技術：22～26歳未満
 - 歯科：専門の大卒(見込み) 20～30歳未満
 - 薬剤：専門の大卒(見込み) 20～26歳未満
- ▶締切日 4月27日(金)
- ▶試験日 5月12日(土)筆記試験、5月13日(日)適正検査(飛行要員希望者のみ)

- ▶入隊・入校 平成25年3月下旬
- ▶申込み・問合せ 自衛隊兵庫地方協力本部 ☎079(426)3290

☎079(423)0119

※申し込み先が違いますのでご注意ください。

加古川市防災センター防災学習3月開催の講習会と教室の案内

加古川市防災センター 普通救命講習会

固定や止血などの応急手当、AEDを使用した心肺蘇生法の講習会です。受講者には、修了証を交付します。

- ▼日時 3月22日(木) 午前9時30分～12時30分
- ▼場所 加古川市防災センター
- ▼対象 播磨町、稲美町、加古川市に住んでいるか勤務している人
- ▼定員 先着30人
- ▼参加費 無料
- ▼申込み・問合せ 3月6日(火)午前9時から、電話で加古川市防災センターへお申し込みください。

加古川市消防本部 親子防災教室

- 固定や止血などの応急手当、AEDを使用した心肺蘇生法の講習会です。受講者には、修了証を交付します。
- ▼日時 3月20日(火) 午前9時30分～11時45分
- ▼場所 加古川市防災センター
- ▼対象 小学生とその保護者
- ▼定員 先着20組
- ▼参加費 無料
- ▼申込み・問合せ 3月6日(火)午前9時から、電話で消防本部予防課へお申し込みください。